

福

岡

市

公

民

館

つ

な

ま

の

手

帖

福岡市公民館つなぎの手帖

はじめに

福岡市では平成12年度から公民館の「地域コミュニティ活動を支援する」役割を明確にするとともに、平成16年度から「自治」と「共働」によるまちづくりを推進するため、「自治協議会制度」を創設いたしました。

また平成28年度からは、地域の様々な主体が地域の未来を共に創り出す「共創」の取組みを進めており、各公民館が担う「活動の場の提供、人的支援、情報発信」の役割は、ますます大きくなっております。この「公民館つなぎの手帖」では、まずI章で「公民館が目指すこと」について一緒に考えていきます。

つづくII章では、それを実現するために、公民館が持つ「つなぐ」という役割を中心に、その具体的な手法等をまとめています。

地域の様々な主体との連携を通して、公民館事業の参加者はもちろん、連携の相手や公民館自身もステップアップしていく。そのような「想い」(野望)を胸に、このハンドブックを作成しました。

この手帖が、公民館事業における連携を考えていく上での一助となりましたら、幸いです。

平成29年3月

福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課

目次

I 公民館が目指すこと

1. 公民館に求められていること — 5
2. 公民館が育む地域の担い手 — 6
3. 公民館にできる支援 — 8
4. 公民館の3つの機能(強み) — 10

II 連携事業の進め方

1. 公民館の連携事業が目指すこと — 12
2. 連携事業の進め方(業務フロー) — 13
3. 連携に向けた準備をする — 14
4. 打合せをする — 16
5. 企画を進める — 18
6. 事業のふりかえりをする — 20
7. 次につなげる — 22

より良い連携に向けて — 24

この手帖の使い方

本冊子は、2つの章から成り立っています。

I 公民館が目指すこと

- ・地域に対して公民館ができる支援や、公民館の強みである機能(集まる・学ぶ・つなぐ)について改めて整理しています。
- ・そこから見えてくるのは、地域の担い手づくりが求められている公民館の姿です。
- ・地域における公民館の立ち位置や役割を意識しながら、読んでみてください。

II 連携事業の進め方

- ・地域の活性化を促す連携事業の進め方についてまとめています。
- ・連携事業に取り組もうとする公民館にとって、具体的なマニュアルとしてお使いいただけます。
- ・それぞれの業務でやるべきことや考えるポイントを□でチェックできるようにしています。
- ・チェックする際には、該当する業務のページをコピーしてお使い下さい。

I

公民館が目指すこと



→ 1 公民館に求められていること

- ・福岡市の公民館には、どんなことが求められているのでしょうか？
- ・福岡市の特色ある公民館の位置づけから、考えてみましょう。

福岡市の公民館の特徴

- ・福岡市の公民館は、小学校区ごとに設置されている社会教育施設です。
- ・そこで働く職員は、地域の方や地域と深い関わりを持った方です。
- ・施設管理だけでなく、住民の暮らしに密着し、積極的に働きかける役割が公民館には期待されています。

地域の現状とこれから

福岡市の「地域のまち・絆づくり検討委員会」の提言では、次のような課題が挙げられています。

* 現状の課題

- ・コミュニティ意識の希薄化
- ・地域活動への参加者が少ない
- ・地域役員等の担い手不足
- ・地域活動への負担感

* これから地域に求められること

- ・幅広い多くの地域住民の参加
- ・地域の実情・特色に応じた取組み
- ・顔の見える関係づくり
- ・集合住宅入居者の地域との関わり
- ・地域の各団体間の連携強化

- ・「地域のまち・絆づくり検討委員会」は、自治協議会制度発足10年の節目に、これまでの成果と課題、求められる取組みなどについて検討するために福岡市が設置したものです。
- ・「地域のまち・絆づくり検討委員会 提言」(平成27年10月)を参考に、本冊子の趣旨に沿って編集しています。

公民館に期待される「地域の担い手づくり」

- ・上記提言では、公民館に「活動の場の提供」「人的支援」「情報発信」が求められています。
- ・社会教育の場である公民館の役割に置き換えてみると、「人的支援」とは、地域に主体的に関わる担い手を育み、その活動を側面から支援することです。
- ・このように公民館は、「地域の担い手づくり」により、住民の生涯学習の推進と地域コミュニティの推進を目指しています。

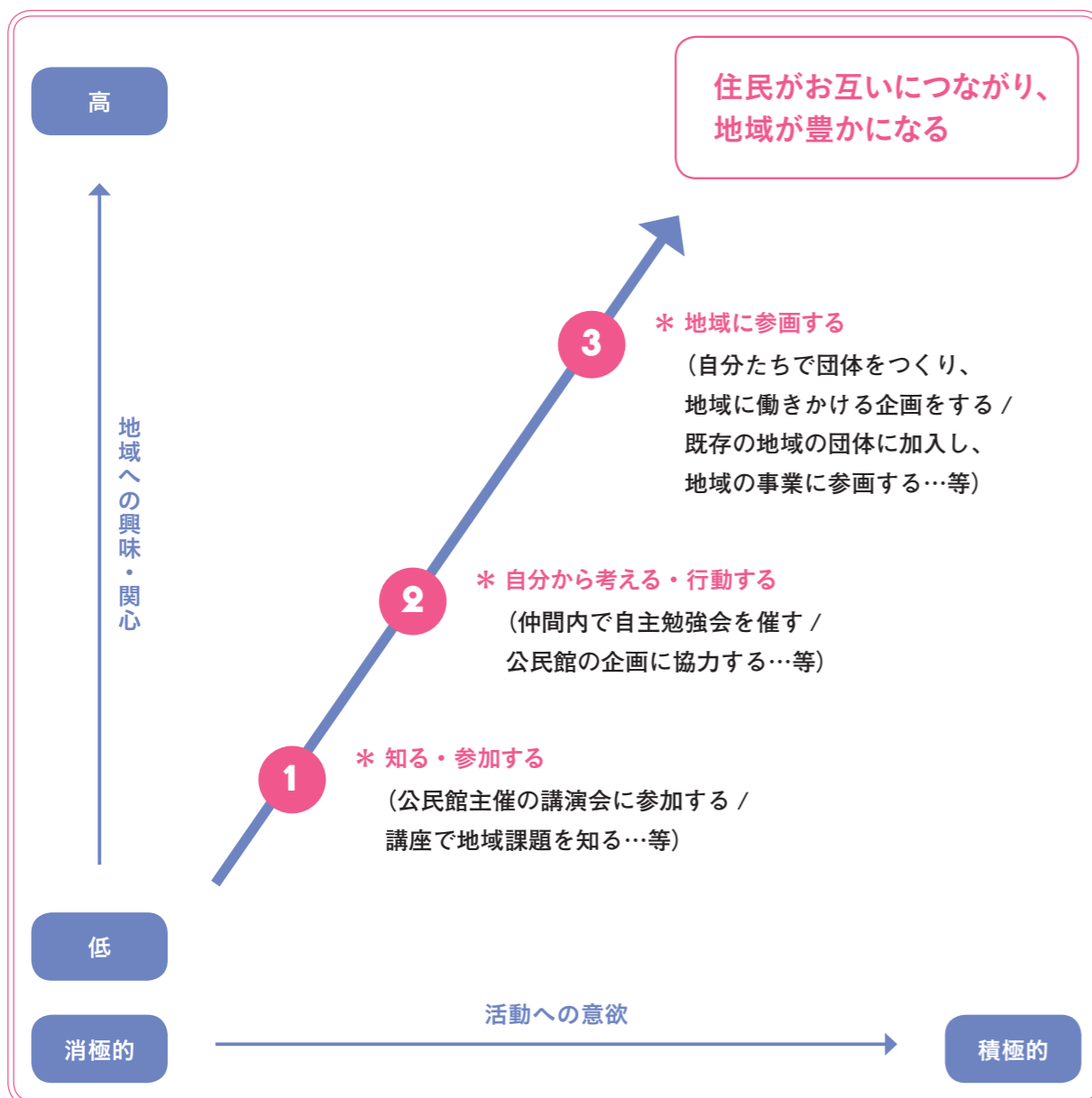
2 公民館が育む地域の担い手

- ・住民は、地域への興味・関心を高め、積極的になることで、より主体的な担い手になります。
- ・公民館は、住民が地域に関わる機会をつくり、地域参画が進むように促すことができます。

住民は、地域への関わりを重ねて、より主体的になっていく

「地域への興味・関心」を持ちながら、同時に「活動への意欲」を併せ持つことで、住民は、より主体的な地域の担い手になっていきます。

住民や団体の地域参画に向けた3つの段階



公民館は、住民に働きかけ、主体性を促す

* 公民館は、住民や団体の地域参画に向けた3つの段階に応じた働きかけをします。

住民が地域に関わる機会やきっかけを提供することは、担い手づくりのために公民館にできる大事な役割です。

* 地域参画に向け、次の段階への促しやフォローも重要です。

積極的に地域に関わろうとする住民に、次の段階の関わり方を促し、後押しすることも公民館の役割です。

より具体的な支援のやり方については、次ページ **P8-9** をご覧ください。



「咲いた咲いたチューリップの会」と有住公民館

1 知る・参加する

地域の友だちが欲しくて、有住公民館主催の「ふれあい広場」(子育て支援の親と子対象の事業)に参加したHさん。そこで知り合ったお友だちと仲良くするうちに、そのお友だちの子どもに発達障がいがあること、そしてお友だちが「この子とどう向き合うか」と子育てに不安を感じていることを知りました。

2 自分から考える・行動する

「他人事ではない」「発達障がいについて学習したい」と思ったHさん。公民館に「発達障がいの学習会を開催してほしい」と相談すると、当時の館長から「自分たちで勉強会を企画してみたらどう？」と逆に提案されました。「自分で企画？」とびっくりしたHさんでしたが、公民館や社会教育主事に支えられながら、まずは人権の基本を学ぶ勉強会から始めました。

3 地域に参画する

やがてHさんは、志を共にする「ふれあい広場」の仲間と「咲いた咲いたチューリップの会」を立上げ、年数回のセミナーを企画運営。その18年の活動の中で、Hさんは「もっと学習を続けたい」「子ども達の言葉に出せない気持ちを、周囲の大人や関わる人たちにも知ってほしい」と思い、PTAに関わるようになりました。今ではPTA会長も務めています。

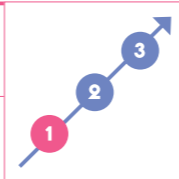
公民館の事業がきっかけで住民に意欲が芽生え、それを公民館が次の段階へ促したことで活動が生まれ、住民もまた主体的な担い手になる。こうした担い手は、みなさんの公民館でもたくさん生まれているはず。改めてふりかえってみましょう！



3 公民館にできる支援

- ・公民館は、「地域活動の場」での支援を通じて、地域の担い手を育てることができます。
- ・住民の地域への関わり方に応じた支援が、公民館には期待されています。

1 住民が「知る・参加する」きっかけをつくる



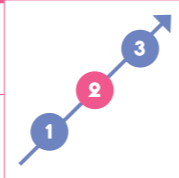
* 学びや参加のきっかけをつくる

公民館は、イベントや講座などの機会を提供することで、住民の地域への興味や関心を高めることができます。

* 参加者の意欲を引き出す

イベントや講座に参加する人々の地域参画への意欲を引き出すために、発言を促したり褒めたりすることで、主体性を促すことができます。

2 住民が「自分から考える・行動する」ように促す



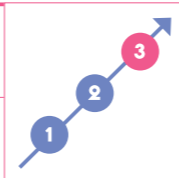
* 自主的な集まりを呼びかける

地域への興味や関心を持った住民に積極的に声をかけ、参考図書の読書会や有識者の話を数人で聞く会など、仲間内での勉強会や愛好会の開催を勧めることができます。

* 個人を地域につなぐ

講座などで知識や技術を培った個人を、同じ領域で活動する個人や団体に紹介することで、一緒に活動できる仲間づくりを促し、活動への意欲を培うことができます。

3 住民が「地域に参画する」ように働きかける



* 企画する側に誘う

地域への興味・関心が高い人や団体（いわゆるキーパーソン）に積極的に声をかけ、公民館の企画と一緒に考えるなど、企画する側に誘うことができます。

* 組織化や地域団体への加入を促す

地域に関わるグループの活動を、より積極的にするために、組織化や既存の地域団体への加入を勧めることができます。



- ！ 公民館は、実践的に担い手を育てる「地域活動の場」を提供しています。
- ！ 地域活動の場でこそ、住民の地域参画に向けた支援が求められます。
- ！ 住民が地域に参加できるような学びやつながりを促すように心がけます。



「地域活動の場」という公民館の強みを、ちゃんと活かしていますか？

- ・座学に集う人々が、そこで完結するのではなく、より地域に関わるように促せていますか？
- ・講座やセミナーで学んだ人々が、その知識や経験を活かせる地域活動の場を提供できることが、公民館の強みです。

公民館特有の「学びを促すチャンス」を、うっかり逃していませんか？

- ・地域イベントを実施する一方で、参加や協力をしている人々に、地域への関心や意欲が生まれるように促していますか？
- ・企画と一緒に進める過程や事業のふりかえりによる学びは、公民館特有の取組みです。



4 公民館の3つの機能（強み）

- ・担い手づくりを行う上で、公民館には3つの機能（強み）があります。
- ・公民館の機能（強み）を確認した上で、とくに「つなぐ」の意味に注目してみましょう。

公民館の「集まる」

公民館の「集まる」には、場所の提供をはじめ、様々な効果があります。
公民館を媒体として、様々な段階の人が集まり、つながっていきます。

ほら、公民館にいっぱい人が！
イベント大成功です！

それだけでいいのかな…？



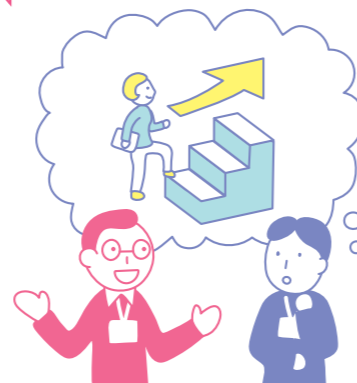
- * 気軽に立ち寄れる
公民館は、特に目的がない人でも、ふらっと立ち寄り、気軽に会話ができ、地域の行事に参加できる場所です。
- * 同じ興味・関心を持つ住民が集まる
公民館の講座やイベントを通して、同じ興味・関心を持つ住民が集まることで、一緒に活動する仲間が生まれます。
- * 地域のキーパーソンも集まる
既に地域で活動するキーパーソンと公民館で知り合い、交流することで、地域活動への意欲が促される場所です。

公民館の「学ぶ」

公民館での「学び」は、地域で実践され、広がっていくことが重要です。

- * 座学での学びの機会がある
様々な講座を通して、公民館がつくる学びの機会は、住民の興味・関心を引き出します。
- * 座学を実践できる学びの機会もある
住民と関わりを通して、座学で学んだ知識を実践できる「地域活動の場」が公民館にはあります。
- * 学びが広がる
講座で学んだ住民が、その後地域で活動することで、彼らの学んだことが、別の住民に伝わり、地域全体の学びへと広がっていきます。

公民館で学んだ人に、
次になんてしてほしいですか？



公民館の「つなぐ」

公民館の「つなぐ」には、地域の人や団体をつなげて、更に次の段階へ高める意味があります。

公民館の「つなぐ」には、段階があります

公民館に集う人たちが、たいてい
同じメンバーになってしまっ…

地域内外に
アンテナをはって、
人材を掘り起こし
ましょう！



- * 住民や団体を、最初につなぐ窓口になる
新しく地域に関わろうとする住民や団体にとって、公民館は最初の窓口になります。
- * 住民を、地域の既存の活動や団体につなぐ
公民館は、知識や経験を持つ住民を、既存の活動や団体につなぐことで、地域での彼らの役割をつくり出します。
- * 地域内外の団体をつなぎ、連携を促す
公民館は、地域内外の団体と連携したり、団体相互の連携を促したりすることで、新しい事業に取り組むことができます。

公民館の「つなぐ」により、「共に創り出す」ことができます

- * 地域課題やニーズに適した事業を共に創り出す
地域課題やニーズは多様なので、公民館単独では対応しきれないこともあります。

例) 認知症の方でも来られるカフェをやりたい…
公民館だけで周知しても参加者が少ない…

こうした問題に対して、
地域内外の団体とつながることで、
お互いの強みやノウハウを活かした
効果的な事業を創り出すことができます。

- * つながりを通して公民館も学ぶ
独自のノウハウを持つ団体とつながることで、公民館も新しい知識や経験を学ぶことができます。

この人をあの人に紹介したら…



連携を通じて
「何を狙いたいかが
大事ですよー！

公民館の「つなぐ」を活かした連携事業をしていきましょう！

- ・公民館ならではの連携事業の具体的な進め方を、Ⅱ章で紹介していきます。

II 連携事業の進め方

1 公民館の連携事業が目指すこと

・I章をふりかえりながら、公民館が連携事業に取り組む意義を確認しましょう。

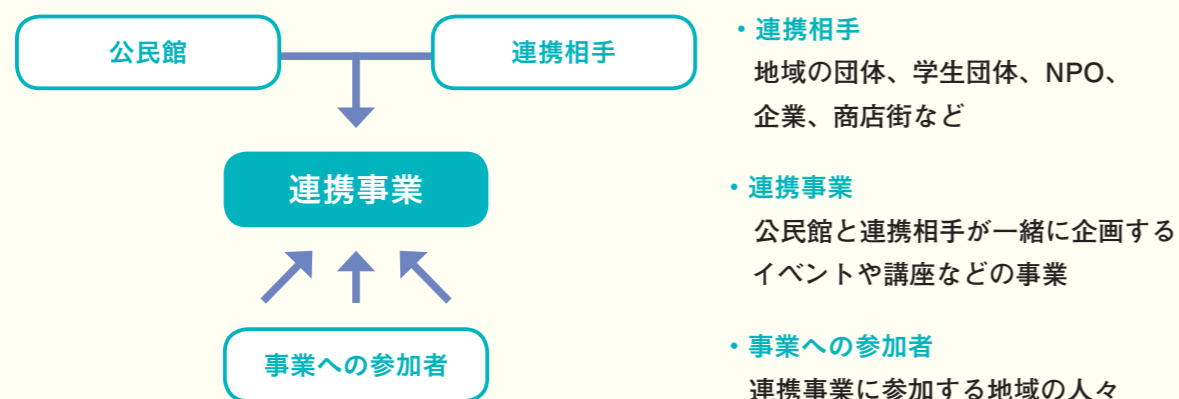
連携事業を通して担い手を育み、地域課題やニーズに応える

- ＊ これからの公民館には「地域の担い手づくり」が求められています。(→p5)
- ＊ 担い手づくりを進める上で、公民館の機能(強み)を活かしましょう。(→p10-11)
- ＊ とくに「つなぐ」に注目してみると、多様化した地域の課題やニーズに対応した事業を他団体との連携を通して創り出していけることがわかります。(→p11)
- ＊ また連携事業は、連携相手をより主体的な担い手へと高める機会になります。(→p6-9)
- ＊ そこで本章では、公民館ならではの「連携事業の進め方」を説明していきます。

本冊子における「連携事業」のかたち

連携には様々なかたちがありますが、大きく分けて下記の2つのタイプがあります。

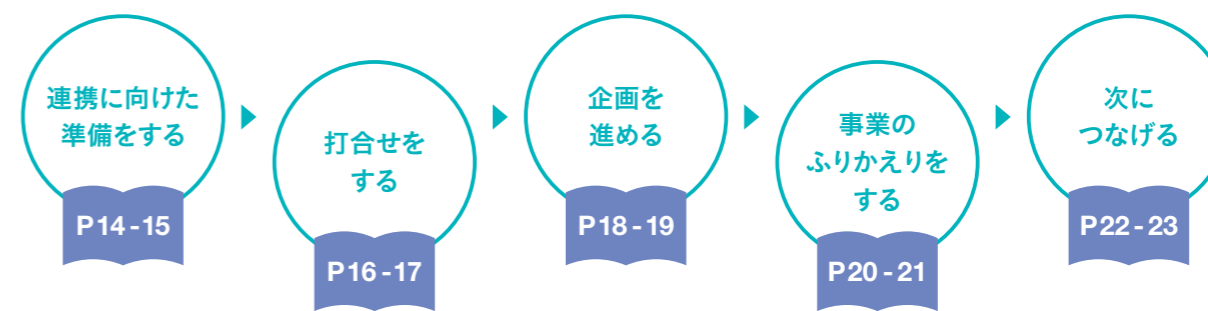
- A 公民館と各種団体の連携**：公民館と連携相手と一緒に企画して連携事業を実施
- B 各種団体同士の連携**：地域の各種団体が連携して事業を主催、公民館は後方支援
本冊子では、「A 公民館と各種団体の連携」のタイプを扱います。



2 連携事業の進め方(業務フロー)

- ＊ 連携を通して、参加者や連携相手が地域の担い手になっていくことも、連携事業の目的です。
- ＊ 本冊子では、参加者だけでなく連携相手を次の段階へと促す公民館の業務を扱っています。
- ＊ 連携相手の地域参画の段階(→p6)に応じて、進め方も柔軟に対応しましょう。
- ＊ また公民館にとっても、連携相手から新しい視点やノウハウを得る学びの機会になります。

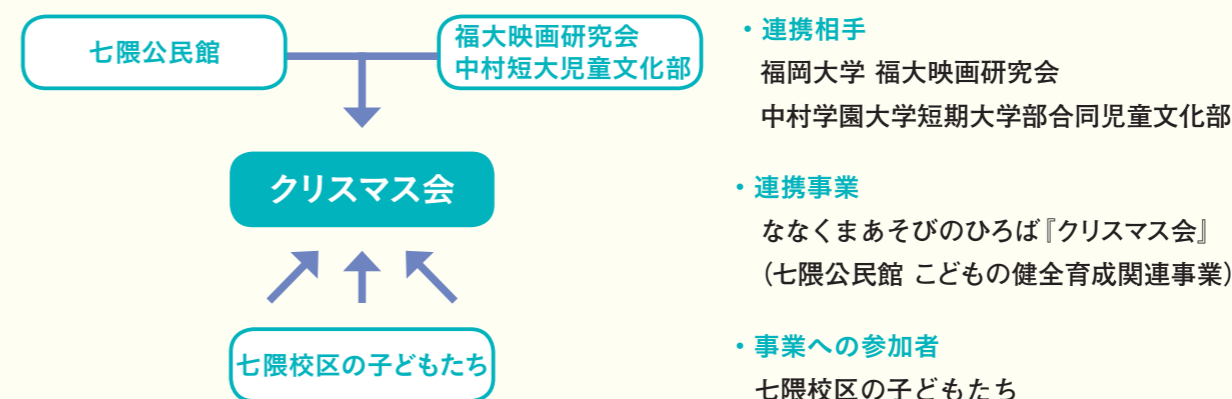
連携事業における公民館の業務の流れ



本冊子で扱う「公民館と各種団体の連携」の具体的な事例

＊ 七隈公民館のクリスマス会

学生サークルのノウハウを活かして、映画研究会がシナリオを書き、それを児童文化部がパネルシアターにして上演するなど、子ども向けの出し物を企画





3 連携に向けた準備をする

- ・相手方から相談があった場合も、相手方に相談をする場合も、事前の準備が大切です。
- ・連携をはじめる前に、公民館で準備しておきましょう。

前もって準備しておくこと

連携に対する考え方や方針を、下記チェック項目を参考に公民館内で議論し、整理しておきましょう。

1 連携事業に向けた「方針」をつくる

- なぜ他団体（地域団体・学生サークル・NPO・事業者など）と連携する必要があるのか
- 連携事業をすることで、どんな課題に取り組むのか/どんな地域の状態を目指すのか
- 連携事業をする際に、公民館はどんな役割を担うのか（何をどこまでやるのか/できないことは何か）

2 連携事業を進める上で気をつけたいこと

- 連携事業で関わる団体のメンバーの自発性・やる気を大切にする
- 連携事業で関わる人々が、「単なる公民館のお手伝い」にならないようにする

3 公民館で準備しておくこと

- 地域の現状を説明できるデータや統計の資料（校区データ集等）
- 連携事業で取り組みたい課題に関する資料

なぜ連携に向けた「方針」が必要なのでしょうか？

公民館内で連携に向けた合意形成や考え方の共有ができていないと、連携事業に取り組む際に、職員によっては連携事業に取り組む意義や目的がわからず、事業に消極的になってしまう場合があります。「連携して何をを目指すのか」「地域にとってどんな意味があるのか」等の方針を公民館内で議論してつくることで、連携への姿勢を内部で共有でき、また連携相手側に相談する上でも役立ちます。

「何かやりたい」との相談があった場合

公民館は、新しく地域に関わりたい人々にとっての窓口です。このチャンスを次につなげましょう！

1 相談したい内容を受け止める

- 相手の話を丁寧に聞き、確認事項（→p17①）をチェックする
- 連絡先を確認・交換し、次に会う機会を設ける



2 相談してきた相手を地域につなぐ

- 相手の話が漠然としている場合には、相手の話を整理した上で、講座やイベントの紹介やボランティア活動を促す
- 相手の話が具体的な企画の相談になっている場合には、地域での実現可能性を探る（→p17②）

「連携相手」を探し、提案する場合

連携に対する公民館の目的や姿勢を整理すると、相談できる相手が明確になります。

1 相談のための資料を準備する

- 連携の目的：連携によって何をを目指したいのか
- 連携の概要：どんな企画をやりたいのか（いつ/どこで/何をやる企画なのか）
- 連携の対象：どんな団体と連携したいのか（学生団体/NPO/市民団体/企業…等）
- 連携相手の関わり方：どのように関わってほしいのか
（一緒に企画したい/イベントに出演してほしい…等）
! 企画がある程度具体化している場合には、企画書（→p18）を準備する
- 連携相手のメリット：公民館との連携が、連携相手にとってどんな意義やメリットがあるのか

2 相談・提案に行く

- 連携相手を探したい場合には、連携に関する相談ができる窓口（→p26）に連絡する
- 連携相手と面談する際には、連携して取り組みたい課題や取り組みの意義をわかりやすく話す
- 自分たちの思いや熱意の押しつけにならないように、連携相手のメリットに配慮する
! 課題に関するデータや統計を事前に準備し、また連携相手の活動を調べておく



4 打合せをする

- ・連携が決まったら、次に行うのは連携相手との打合せです。
- ・打合せは、連携相手と公民館の双方にとって、学びを得られる絶好の機会になります。
- ・充実した気づきや学びを促すために、公民館にできることをまとめています。

対話の場をつくる

下記項目に注意しながら、充実した打合せを目指しましょう。

1 充実した打合せとなるために、公民館がすること

- 自己紹介をする際には、公民館の役割も説明する
- 趣旨を共有した上で打合せを進めるために、最初に、打合せの目的や流れ（時間）、今回決めておきたいこと（ゴール）を確認する
- だらだらした打合せにならないように、時間管理をしながら進行をする
- 話した内容を参加者全員で共有できるように、「見てわかる」かたちにする（意見の板書やメモ、参加者がまとめた資料等）
- 後ですれ違いが生じないように、打合せで確認・決定された内容を最後に改めて確認し、共通の認識をもつ
- 謝礼金の有無について確認する

2 連携相手と良い関係を築くために、公民館が気をつけたいこと

- 連携相手が萎縮しないように、できるだけ連携相手の自主性に委ねる
- 問いかけに対する、相手の発言をじっくり待つ
- 相手の発言を無下に否定しない（いきなりダメ出しをしない）
- 公民館が伝えたいことに一生懸命になりすぎて、連携相手の自主性を削がないようにする
- 連携相手の話に流されて、連携における公民館の役割が疎かにならないようにする
- 意見や考え方の相違がある場合には、うやむやにせず、違いを共有しながら進める
- 「事業に関わることで地域への貢献になる」という意識を連携相手が持てるように促す

思いをかたちにする

「地域が求めること」「連携相手がやりたいこと」「公民館ができること」のバランスが大事です。

1 相手の話を確認する

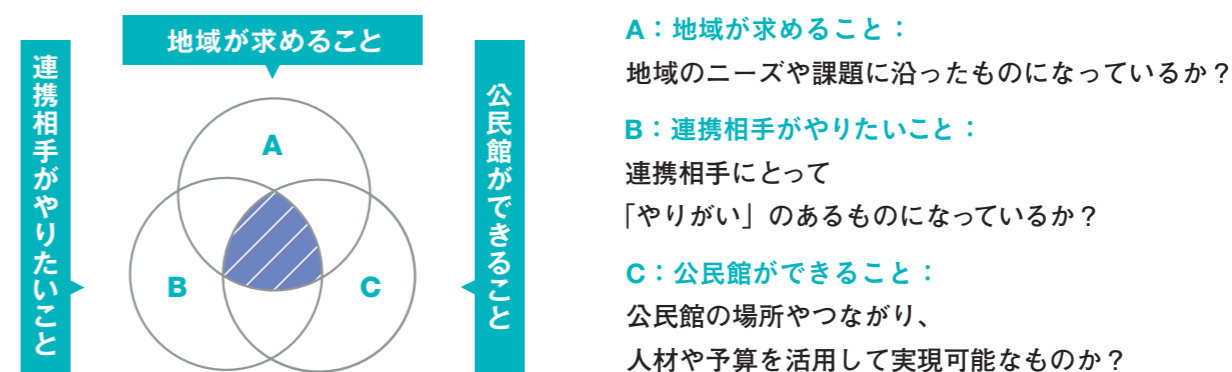
連携相手と取組む事業の話を、以下の点で確認・整理する

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 目的：なぜやるのか・なんのためにやるのか | <input type="checkbox"/> 対象：誰向けにやるのか |
| <input type="checkbox"/> 主催：どちらがメインでやるのか | <input type="checkbox"/> 時期：いつ実施するのか |
| <input type="checkbox"/> 規模：どれくらいの参加者を想定しているか | <input type="checkbox"/> 予算：いくら予算が必要なのか |
| <input type="checkbox"/> 進め方：どのようにやるのか | <input type="checkbox"/> 条件：企画を進める上で外せない条件が他にあるか |
| <input type="checkbox"/> 連携：他に連携が必要な団体があるのか | |

2 相手の思いを地域につなげる

重要

- この企画が A・B・C の重なるものになっているかどうか、吟味する



例えば「料理教室をやりたい」というサークルが連携相手なら、「公民館ができること」を伝え、地域の子どもや親世代の状況を打合せの際に共有するなど、企画をより地域ニーズに沿ったものへと促しましょう。

3 目的をつくる

上記1と2での検討を踏まえて、この連携事業の目的をつくる（→ p23 もご参照ください）

- 連携相手と共に目指す目的：この連携事業を通して、連携事業への参加者にどうなってほしいのか
- 公民館独自の目的：この連携事業を通して、連携相手にどうなってほしいのか



5 企画を進める

- ・企画書は、連携事業を公民館と連携相手が進めていく上での共通認識となります。
- ・また事業の進捗にあたっては、段取りに配慮します。

企画書にまとめる

企画書にまとめる技術は、主体的に企画立案する上で不可欠なものです。

打合せの内容を「企画書」にまとめる

連携事業の概要がまとめられた企画書は、公民館と連携相手の双方が、事業を進める中で確認していくものとなります。また企画書は、地域への説明や広報、助成金申請等、いろいろな場面で活用できます。



連携相手にも企画書をまとめてもらおう！

連携相手が地域のなかで自立的に活動する上でも、企画書の各項目をまとめる力は重要です。

「連携相手にどう変わってほしいか」という公民館独自の目的(→p17)や連携相手の地域参画に向けた段階、更には連携事業の成り立ち(どちらが連携を持ちかけたか)に応じて、場合によっては連携相手に企画書をまとめてもらいましょう。

そうすることで、「連携相手の主体的に事業を進める力」を向上させる機会をつくることができます。

企画書

- ・企画タイトル
- ・サブタイトル(一言で企画を伝えるコピー)
- ・企画の目的(連携相手と共に目指す目的)
- ・開催日時
- ・会場
- ・対象者
- ・参加費・予算
- ・当日の内容・スケジュール
- ・主催
- ・連絡先

段取りに注意する

段取り(作業の洗い出し・役割分担・進捗管理)を連携相手にある程度委ねることで、主体的に事業を進める力が向上します。連携相手の地域参画の段階や連携のかたちに応じて、柔軟に対応しましょう。

1 やるべき作業を洗い出す

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> イベント当日までの広報やPR(の準備) | <input type="checkbox"/> 連携する他団体との連絡調整 |
| <input type="checkbox"/> イベント当日に必要な備品確認&準備 | <input type="checkbox"/> スタッフ間での情報共有の徹底 |
| <input type="checkbox"/> イベント当日のスタッフワーク作成 | <input type="checkbox"/> その他() |
| <input type="checkbox"/> 準備や当日に協力するスタッフの手配 | |

2 役割分担をする

- 「誰が」「どんな作業をするのか」を役割分担する
- 役割分担した内容を、連携相手と確認し、共有する

3 進捗管理に注意する

- それぞれの役割分担や担当者の作業が滞りなく進んでいるかをチェックする
- 必要な打合せや準備作業の日程を確定し共有できているかをチェックする
- 連携事業の進捗を共有する打合せの機会を設ける
- 事業の進捗に問題が生じている場合には、役割分担の変更や見直しなど柔軟に対応する

4 (必要に応じて)他団体との調整をする

- 他団体と連携・協力する場合には、他団体の関わり方を明確にして企画を進める

段取りをある程度委ねることが大事！

段取りを連携相手に委ねることは、主体的に事業を進める力を向上させます。もっとも、連携相手の段取りがうまくない場合には、事業に支障が出る可能性もあります。一方で、公民館が段取りをしすぎると連携相手に学びはなくなってしまふ…。事業目的を勘案しながら「委ねる」バランスを見極めることが求められます。



6 事業のふりかえりをする

- ・ふりかえりは、連携相手と公民館の双方にとって、大事な学びの機会です。
- ・一度きりの関係で終わらずに次につなげる上でも、ふりかえりに大きな意味があります。
- ・そのために事業の様子を客観的に捉え、ふりかえりでの効果的なコメントを探ります。

事業の様子を客観的に捉える

事業の進行を客観的に捉え、ふりかえりで活用できるようにメモをとっておきましょう。

1 連携相手や公民館のスタッフの関わり方に配慮する

- 連携事業のスタッフの様子に配慮する（楽しそう/生き生きしている/困っている/きつそう…）
- 公民館独自の目標に照らして、連携相手に変化があるかをチェックする
- 連携相手にどのような変化が現れているかをチェックする

！連携相手の変化をチェックする具体的なポイント

- ・発言の変化（例：地域に関する質問が増えた/地域に関わるやりがい話を話した…など）
- ・行動の変化（例：公民館に来る頻度が増えた/地域の人と仲良くなっていった…など）
- ・意識の変化（例：地域でやりたいことを明確に話した/
地域の課題やニーズに沿うように企画を提案するようになった…など）

2 参加者の様子を気にかける

- 参加者の様子をよく見る（楽しそう/生き生きしている/困っている…）
- 事業に参加した感想や印象を参加者に聞く（直接たずねる/アンケートを実施する）

ふりかえりの意味：気づきを言葉にする

事業全体をふりかえることで、まずは、事業をやってみて思ったことや感じたことなどを改めて思い起こし、自分の気持ちを整理することができます。そしてふりかえりでの対話を通して自分なりに言葉にすることで、連携相手や公民館職員とのあいだで、思いや感情が共有されます。そこでは「自分と同じように達成感を感じている人がいた」「企画を良くしたいとの思いは自分だけじゃなかった」といった新たな気づきも生まれてくるでしょう。

こうした気づきから個人的なやりがいが生まれ、さらにお互いのあいだで、事業を次につなげる意欲や雰囲気も培われていきます。

事業全体の「ふりかえり」をする

連携相手の意欲を引き出し、次につながる関係をつくるふりかえりの進め方です。

このやり方は、KPTというふりかえりの手法を独自にアレンジしたものです。

1 ふりかえりの準備をする

- お互いの顔が見えるように、円になるなど座り方を工夫する
- ふりかえりの板書（下図）をホワイトボードや模造紙等に準備して、下記の順序でふりかえりを進める

よかったところ	気づきや 学びになったこと
気になったところ	次回に向けた 改善点

ふりかえりと反省会は別のものです。反省会では問題点の指摘が多くなりがちで、スタッフにも欠点ばかりが意識されがちです。その点で、スタッフのやりがいや意欲の向上にはあまり効果的ではありません。そのため本冊子では、意欲を引き出すふりかえりの進め方を説明しています。

2 ふりかえりをする

- ① 「よかったところ」を、1人ずつ全員がコメントする
- ② 「気になったところ」について、気がついた人からコメントする
- ③ 連携事業を通して、気づきや学びになったことを、適宜発表してもらう
- ④ 次回に向けた改善点を確認・共有する
- ⑤ お互いに拍手して終わる

3 ふりかえりで気をつけること

- ダメ出しに終始する反省会にならないようにする
- 一方で、事業（イベント）が滞りなく終わった達成感だけで満足しない
- やりがいを感じているスタッフのコメントを拾い、他のスタッフに共感を促す
- 改善点の指摘では、「次にどんなことがやりたいか」といった話題にも言及する
- ふりかえりのやりとりの中でも、連携相手に変化が生まれているか注意する



7 次につなげる

- ・連携事業を実際にやってみて、連携相手と良い関係が築けた場合には、「次と一緒に目指したいこと」を考えてみましょう。

公民館独自の目的を達成するための目標(達成目標)を考える

- * 連携事業の目的は、「連携相手との共通目的」「公民館独自の目的」の2つがありました。(→p17③)
- * これらの目的を達成するための具体的な指標を伴った目標(達成目標)を設定します。
- * 以下で考える達成目標は、公民館独自の達成目標です。
- * 公民館独自の達成目標は、連携相手の支援をする上で、公民館側の目安となるものです。

連携事業における公民館独自の達成目標を考える

下記の順番で、公民館独自の達成目標を考える

- ① 連携相手と共に目指す目的を改めて確認する
- ② この共通の目的を目指す上で、連携相手にどう変わってほしいのか(公民館独自の目的)を考える
- ③ 連携相手に変わってほしい状態を、どのくらいの期間と段階で実現していくかを考える
- ④ 期間と段階に応じて、連携相手に達成してほしい具体的な指標を考える

指標の例

- ・事業への参加人数
- ・単独で事業を実施する
- ・連携相手の中心メンバーの人数
- ・企画立案を任せられる
- ・勉強会の有無/実施回数
- ・他団体と独自に連携事業をする …など

連携相手とより良い関係を築くために

連携相手とより良い関係を築く上で、「連携相手にどう変わってほしいか」の具体的な目標を考えることは重要です。もっとも、相手のなかでその目標が腑に落ちていないと、押しつけのように見えてしまい、相手の主体性が削がれる可能性も…。その意味で、公民館独自の目標を連携相手に伝えるかどうかは場合によります。

相手が「もっと地域に関わりたい」と自分から言い出すのを待った方がよい場合、「期待している」と伝えることが意欲を高める場合…など、連携相手の性格、活動状況、地域への関わり方など、様々な要素を勘案する必要があります。どんな支援をすれば、連携相手と良い関係を築きながら、相手の地域参画に向けた段階を高めていけるかは、社会教育施設である公民館の腕の見せ所ですね！



「達成目標」…どんなことを設定したらよいでしょう？

イベントへの参加人数や関わったスタッフの数など、数えられるものは達成度も測りやすいですね。では、「地域への興味・関心」「活動への意欲」といった住民の変化は、どのような達成目標を設定したらよいのでしょうか？

達成目標は、数年単位のスパンで考え、最終的に到達したい目的を段階的に達成していくように設定することが大事です。以下に、連携事業における公民館の独自の達成目標の例を示しています。これらを参考に、自分たちの公民館が連携相手にどんな変化を求めるのか、変化はどういうかたちで観察できるか…など考えてみましょう。

- * 連携相手との共通目的(例)：地域の子どもと親世代の食育の向上を計る
- * 公民館の独自目的(例)：連携相手を地域に根ざした活動のできる団体にする

【連携相手が食育サークル(メンバー3人)だった場合の目的と達成目標の設定例】

共通目的：地域の子どもたちを対象に、食育の啓発をする講座を実施する

1年目

独自目的：食育サークル(メンバー3人)の仲間を増やす

達成目標：食育の講座を年2回(半年ごと)実施し、参加者を60人集める
参加者の中から新規メンバーを勧誘し、メンバーを10人にする

共通目的：親世代に啓発を促すために、親子向けの講座を実施する

2年目

独自目的：食育サークルが、より地域ニーズに沿った企画をするようになる

達成目標：地域の状況を学ぶ勉強会を年3回実施し、企画に反映する
10名のメンバーで役割分担し、食育講座を年4回で実施する

共通目的：更に広く啓発を促すために、小学校と連携して講座を実施する

3年目

独自目的：食育サークルが、他団体と連携して事業をするようになる

達成目標：校区の小学校の先生と意見交換会を実施する
年4回の食育講座のうち1回を、小学校と連携して企画する

❗ 達成目標を設定すること、それ自体が大事なのではありません。どれくらいの期間で、どんな段階を通して、連携相手に変化してほしいかを予め考えることで、連携相手への支援を効果的なものにするのが大事なのです。

よりよい連携に向けて

- 地域課題やニーズに対応していく上で、地域内外の各種団体との連携がますます求められます。
- 公民館には、地域内外の人材や団体をつなげる役割も期待されています。
- 本冊子では公民館と各種団体の連携を扱ってきましたが、連携のかたちは様々です。
- よりよい連携に向けて、お役に立ちそうなトピックをまとめてみました。ご参考ください！

地域に関わる人々をつなぐ上でのポイント

地域に関わる人材・団体をお互いにつなぐ際に気をつけたい心得をチェックしましょう。

1 つなぐ上で、求められること

- つなぐ上での考え方を整理・共有する**
連携事業に向けた方針 (→p14①) など、住民や団体をつなぐ上での公民館の考え方を整理し、館内で共有する。
- 話を受け止める**
住民や地域団体、学生や事業者からの多様な相談に耳を傾け、丁寧に話を聞き、相手の話を整理する。(→p15)
- キーパーソンに声かけをする**
地域内外で活躍する人材や団体へのアンテナをはり、自分たちから出向いて声かけをする。(→p26)
- 人を求めていることをPRする**
公民館で活動したい人や団体を、公民館だよりや公民館ブログで募集するなど、情報を発信する。(→p26)
- 情報を集める**
活動や連携に役立つ情報 (→p14③) などを集めて、まとめておく。

2 つないだことで、求められること

- 関わった住民や団体の地域への興味・関心や意欲を高める**
企画の打ち合わせやふりかえり等を通して、地域への興味・関心や活動への意欲を引き出す。(→p16-17/p20-21)
- 自立的な活動として持続するように促す**
自立した営みとして活動が持続するように、相手が担える役割を丁寧に作り、相手の主体性を促す。(→p8-11)
- 新たな活動を創り出す**
地域内外の団体との連携を促すことで、新たな事業を創り出し、活性化を図る。(→p11)
- 事業の成果をまとめて、発信する**
公民館を通して生まれた事業の成果 (→p23) をまとめ、幅広く発信する。

意見交換の場を設けよう！



公民館の「集まる」の実践として、様々な人々が集いお互いに意見を交換する「意見交換会」があります。ここでは面白い事例をご紹介します。

城南区七隈公民館では、年度始めに、近隣の大学の学生（福岡大学・中村学園大学）と地域の人々が集い、お互いに意見を交換する場をつくっています。各テーブルに分かれて、お互いに自己紹介した後、地域や大学が取組んでいる地域活動や年間行事を共有したり、学生と地域と一緒にできそうなアイデアを考えるワークをしたり…簡単なワールドカフェ方式で進行します。コーディネートするのは、公民館主事です。自己紹介の時間を丁寧に区切る等、お互いが気持ちよく話せる「対話の場づくり」への配慮が、いろいろなされています。

こうした意見交換の場での参加者の声には、連携事業をどのように進めていきたいのか、どんな団体と関わりたいのか…等々、連携に向けた「方針」を考える上で、いろいろなヒントがあります。

こうした意見交換の場は、市民局が進める「校区ビジョン」のワークなど様々なかたちで実施できます。ぜひ、様々な人が集う場を通じて、連携に向けた準備を進めてみてください。

学生と連携をする上でのポイント



「学生がいるだけで、場の雰囲気明るくなる」という声も聞かれる一方で、「卒業したらいなくなってしまう」「どのように関わっているのか…」という方もいらっしゃるかもしれません。ここでは、「学生がデザインする公民館事業」の現場で聞かれた学生と連携する上でのポイントを、いくつかご紹介しましょう。

- * 今の学生は（昔と比べて）忙しい。授業や試験、就職活動のスケジュールを丁寧に確認する。
- * 学生はボランティアであり、過度な期待をするとプレッシャーになってしまうので、適切な距離感を保つほうが、よい関係を築ける。
- * 学生を単なるお手伝い扱いするのは厳禁。やりがいを見出だせるように工夫する。
- * 学生への連絡は、学生が日常的に用いている連絡手段（LINEなど）が有効。
- * 個人・サークル（大学公式/非公式）・教員の研究室・大学の地域連携室…など、公民館と学生のつながり方は様々で、それぞれの窓口や進め方も変わってくる。

連携事業に向けて公民館ができること

連携に向けた準備 (→p14-15) ができているならば、連携事業と一緒に進める相手を、自分たちから探すことができます。また連携する相手を求めていることを発信することもできます。そんなアプローチの取組例を、いくつかご紹介しましょう。

* NPOやボランティア団体・学生サークルが集うイベントに参加してみましょう

福岡市では「共働カフェ」「地域の絆応援団イベント」等、様々なイベントが開催されています。そこに参加して「どんな団体がどんな活動をしているのか」を知ったり、実際に団体の人と話したりすることもできます。

* NPOやボランティア団体を探したい場合には

NPOやボランティアをはじめとする様々な市民公益活動の情報・交流拠点「あすみん」にご相談ください。

福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん

住所：福岡市中央区今泉1-19-22 天神クラス4階

webサイト：<http://www.fnvc.jp/>

電話番号：092-724-4801

* 自分の校区の人材（事業者や活動団体）を掘り起こしましょう

地域に関わる意欲のある住民や事業者は少なくありません。同じ校区内でありながら、普段はあまり関わりのない活動や事業者のことを調べたり、「校区ビジョンの策定」のような取組みを活用したりして、あまり地域に関わりのなかった層を掘り起こすことができます。

* 「連携相手を求めている」ことをPRしましょう

連携相手は、単なるお手伝いではなく、一緒に地域課題に取り組む仲間です。そんな関わり方を公民館が求めていることを、広くPRしていきたいですね。公民館だよりや公民館ブログなどで自分たちから発信したり、大学の地域連携室や企業の広報窓口、NPOやボランティア情報の集う「あすみん」（上記）に連絡して相談することもできます。



福岡市 公民館つなぎの手帖

発行年月日 平成29年3月
発行 福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課
〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1
電話番号：092-711-4654
FAX番号：092-733-5595
Mail：kominkanshien.CAB@city.fukuoka.lg.jp

企画編集 福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課
NPO法人ドネルモ

デザイン 川路あずさ (HYACCA)
イラスト 山川享平 (CLASS STUDIO)

